



さあ後半、まだ半分？もう半分？

月が替わって今週は、ようやく秋らしい日々がやってくるようですが、今年の夏は、本当に暑くて長かったですね。季節の変わり目は体調を崩しやすいそうです。お気をつけください。

さて、10月が始まりました。ということは、今年の学年の半分が終わったということです。ちょうど去年のこの時期の児童朝会で、子どもたちに、水が半分入ったコップの写真を見せて、「この水は、まだ半分残っていますか？それとももう半分しか残っていませんか？」と尋ねたことを思い出しました。同じ水の量でも、その人の置かれている状況によって、答えは違ってきます。喉が渴^{のど}いて水が欲しくて仕方がない人は、もう半分しか残っていないと思うでしょうし、そうでない人はまだ半分も残っていると感じるかもしれません。それと同じで、一年間を見通したとき、10月を迎えて、子どもたちの中には、もう半分も終わってしまったんだと思う人もいれば、まだ半分しか終わっていないんだと思う人もいるでしょう。前者は、きっと毎日学校生活を楽しんだ人でしょうが、後者は、残念ながら毎日学校に来るのがしんどかった人かも知れません。人は、楽しくて夢中になればなるほど時間が経つのが早いと感じます。逆に退屈な時間ほど長く感じるものです。ですから、子どもたちにとって、今年度の後半は、あっという間に終わってくれたらいいのになと思っています。(でも、本当にあっという間に終わられると、あれこれしなければいけない先生たちは、あせってしまうかも知れませんが…。)

ところで、10月といえば、運動会のシーズンです。かつては、入学式・卒業式と運動会は、学校にとって節目^{ふしめ}の三大行事とよく言われました。そのうち、年間を通して前半と後半のちょうど境目にあるのが秋の運動会でした。しかし、最近では、本校のように1学期に運動会をしたり、暑さ対策で10月の下旬や11月に実施したりする学校が多くなってきました。ですから、10月に大きな行事を一つ終えて、さあ後半へという感じではなくなってきたのではないかなと思います。天王寺小学校でも、6年生は、今週修学旅行に行くことで一区切り^{ひと}をつけて、卒業^{かくじ}へ向けて舵を切りますが、他の多くの学年では、静かに後半戦に突入します。

しかし、大きな行事はなくても、節目を作って振り返ることは大切です。学校では、2学期の終わりにも振り返りをしますが、その後残りの時間は少ししかありません。ですから、子どもたちには、

ここでこれまでの半年間をしっかりと振り返って、残りの半年間をどのように過ごしていくのかを考えてほしいと思っています。

さて、子どもたちにとって、残りの半年は、まだ半分あるのでしょうか、それとも、もう半分しかないのでしょうか？



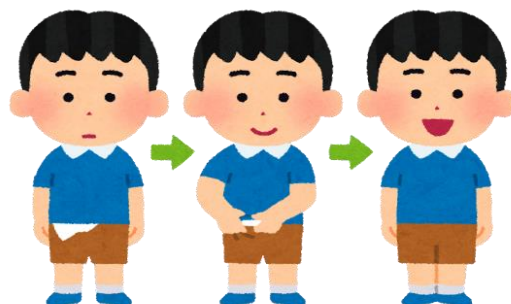
冬の^{よそお}装い

これだけ夏の名残りが強いとまだまだ先のような気がしますが、あと1か月もすると学校から、登下校時などの冬季の服装についてのお便りを出します。

昨年のお便りでは、これまであった「長ズボンやスパッツ・タイツを履く時には連絡帳に書いてもらいましょう」という項目をなくしました。お子さんの体調が悪い事を連絡していただくのは必要ですが、だからと言ってわざわざタイツや長ズボンを履きますということをお知らせいただく必要はないと思ったからです。服装は、ご家庭や学園で、お子さんの体調をみて判断していただければよいのではないのでしょうか。また、「体調が悪く長ズボンをはいている日は体育を見学し、休み時間は静かに過ごしましょう」という一文もなくなりました。長ズボンを履いていようがいまいが、体調が悪ければ体育を見学するのは当たり前です。何だか「長ズボン=体調不良の^{あかし}証」のように見えて、変だなあと思いました。だって、冬になると家や学園に帰れば多くの子が長ズボンを履くでしょうし、標準服のない学校では、長ズボンを履いて登校する子が普通にいます。そんな事から、その文章を読んで、「元気な子どもはいつでもどこでも半ズボン!」という昭和チックなイメージが、学校の中だけに残っているような気がしたのです。

とは言え、「そもそも標準服には、半ズボンとスカートしかないじゃないか。」と言われると、そのとおりです。ですから、今年から標準服の長ズボンを設定することにしました。長ズボンは、冬に限らずいつでも履くことができるようにし、デザインもユニセックス(男女兼用)にしています。詳しくは後日案内の手紙を配布しますのでご覧ください。また、ついでに体操服にも長ズボンを設定しました。もちろん、冬になっても半ズボンやスカートで登校する子は、そのままよいですし、体育の授業も同じです。これまで通り「標準服を着て登校する」という基本は変わりませんので、あくまで服装の選択肢が増えたという程度でお考え下さい。

時代が変わると世間の価値観も変わりますし、その多様化も進みます。そんな中で学校だけが、変わっていかないのはいかながなものかと思っています。しかし、何でも変えればよいというものでもありません。また、保護者や子どもの声だけに耳を傾けてすべてを受け入れていくのも違うと思います。学校の中には変えるべきでないものや変えてはいけないものもあるのです。そうした大切にしなければいけないものをしっかりと守りながら、変えるべきところは変えて、時代に即した学校運営を行っていきたいと思います。これからも皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



大切なのはズボンの^{たけ}丈より身だしなみ